

## 研究部会報告



### ● D P ●

#### ● 2月(シンポジウム)

日時：2月28日(火)～29日(水) 場所：八王子セミナーハウス 出席者：坂口実，岸 尚，中井暉久，蔵野正美，安田正美，中神潤一，小田中敏男

- 発表 1) 岸，Naval Postgraduate School 留学記  
2) 小田中，最適在庫調査期間の決定について  
3) 中井，The HNBUE and HNWUE Classes of Life Distributions(文献紹介)  
4) 中神，Simple Bounds on Availability in a Model with unknown Life and Repair Distribution(文献紹介)  
5) 安田，Pure Strategy Nash Equilibrium Points and the Lefschetz Fixed Point Theorem(文献紹介)  
6) 蔵野，可測な費用関数をもつマルコフ取替え問題  
7) 坂口，Single-Shot Noisy Duels with Disparate Information to the Duelists

### ●数理計画(九州)●

#### ● 第6回

日時：1月28日(土) 場所：九州大学理学部数学教室 出席者：18名

題目(1)「不完備情報ゲームについて」坂口実(大阪大) 不完備情報2人ゲームを多人数の多行列ゲームに縮約し，poker, bidding, bargaining, police and drivers, limit pricing and entryの5つの代表的なゲームについてその最適解(=行動)を求め，巷間いわれている種々のカケヒキの妥協性を数学的に裏づけた。

(2)「公共財と誘因両立性」田中廣滋(熊本大・教養) 厚生経済学における公共財の最適配分に対してパレート最適必要条件を求め，それが達成されるか否かを論じた。また，最適条件の可解性に対するClarkeとGrovesのアプローチを紹介し，誘因両立性はGroves機構によって達成されることが示された。

### ●信頼性・保全性●

#### ● 第10回

日時：3月3日(土)14:30～17:00 場所：東京工業大

#### 学経営工学科

テーマ：故障率のベイズ推定値を用いた2重化システムの点検方策 講師：渡辺均(電電公社武蔵野通研)

予備機の故障が潜在化する2重化システムにおいて，運用データからその故障率を推定しつつ予防保全としての点検周期を動的に決定する方策が提案された。点検周期を決定するときの基準として，目標不稼働率を満たす範囲で点検回数の最小化がとられている。

### ●待ち行列システム●

#### ● 第11回

日時：3月17日(土)14:30～17:10

場所：東京工業大学(情報科学科会議室) 出席：22名

テーマと講師：●QS11-1 M/G/S待ち行列の平均待ち時間に対する新しい近似式(木村俊一・東工大)—M/M/S, M/D/Sの平均待ち時間，およびサービス時間の変動係数を用いた近似式の提案と精度の評価—

●QS11-2 Simulation output dataの解析(逆瀬川浩孝・筑波大)—待ち行列モデルのような確率過程に対するシミュレーション出力の解析法に関するサーベイと実験結果—

### ●政策科学●(研究グループ)

#### ● 第7回

日時：2月18日(土)14:00～17:00 場所：三菱総研

テーマ：①「通信衛星の打上げと利用」佐野忠男(三菱総研) 通信衛星のような先端技術の集約されたものをうまく運用してゆくことはマン・マシンシステムの管理に帰着させることができ，中でもリハーサルを行なうことによる練度の向上が目的達成に大いに役立っている。

②「地方自治情報センターにおける政策分析手法に関する調査研究の紹介」片山隆仁(防衛庁)本資料を参考にして，当部会独自の政策科学実践のプログラムを確立すべく，継続検討してゆくことになった。

#### ● 第1回

日時：3月17日(土)14:00～17:00 場所：三菱総合研究所 出席者：10名

テーマ：国際関係論における政策分析—政策分析の新しいパラダイムを求めて 講師：生天目 章(防衛庁) 従来の分析手法を，教科書どおりのステップを踏んで，最適解を導出しても，実際に適用される政策とのあいだにギャップが存在する。これが意思決定者・政策分析担当者の双方に不満を感じさせている。これを解消するためのアプローチとして，3種類(合理的行為・組織過程・官僚政治)のモデルを組み合わせる方法を提示した。